

倫理 研究課題 <源流09>

教科書：p ~ 資料集：p ~ ノートp ~

●パウロ

もともとパリサイ派の（厳格な）律法主義者だった。

律法を厳格に守ろうとすればするほど、守りきれない自分が許せなくて、苦悩していた。

あるとき劇的な回心を経験して、キリスト教の伝道者に転進、異邦人への伝道に生きた。

キリスト教徒たちはローマ皇帝を神として崇拝することを拒否したので、弾圧され刑死。

①贖罪論

十字架の死は、原罪（傲慢さ・自己中心性）が許され、神によって愛されるための犠牲。

→ユダヤ人以外の人間にとっても意味ある死となった（普遍性の獲得）。

②信仰義認論

「人が義とされるのは、律法の行いによるのではなく、信仰による」

※「義とされる」=正しいと認められる、罪がゆるされる（希望をもつことができる）

※「信仰・希望・愛」が大切である（→のちにキリスト教の三元徳となる）

●キリスト教会の成立

1～2世紀にペテロとパウロを中心に原始教会が誕生。その後、新約聖書が編集される。

聖典は『旧約聖書および新約聖書』（両方！）。『新約』=福音書+パウロの手紙など

※「新約」=「神との新しい契約」の意。※「福音」=「イエスの教え」の意。

★「十字架の死」の意味を理解することは、人間の心に何をもたらすのだろうか？

.....

.....

.....

.....

★「人が義とされるのは、律法の行いによるのではなく、信仰による」とはどういう意味？

.....

.....

.....